

新役員を紹介します

第二回定時総会において、次の三名が新たに就任されました。

・ 監査委員

茂木 有司氏(S 43 商)

前任の鈴木脩二氏がご逝去され、空席となっていました。茂木氏より就任受諾の挨拶がありました。

・ 幹事 企画担当

榎田 成美氏(S 42 法)

・ 幹事 総務担当

峯岸 正巳氏(S 63 工)

平成27年度活動計画

一、カラオケ「紫紺の会」

毎月、楽しく開催♪

のど自慢の方も苦手の方も、お茶、ビールでのどを湿らせて、「カラオケ」を楽しむことのできる、親睦・交流の場です。多数のご参加をお待ちしております。

・ 日時：原則 毎月最終土曜日

午後3時30分～6時15分

次の4日は決定しています。

7月25日、8月29日

10月31日、12月26日

・ 場所：ひじり館2F和室

・ 会費：500円

・ 参加申込：

寺島忠昭(S 41 経営)まで

(携帯)

(メールアドレス)

なお、会場予約の状況により、日時が変更になった場合は、参加申込者へメール等でご連絡いたします。

二、キューピーマヨテラス 仙川見学会

・ 日時：7月7日(火)

・ 集合：15:00 仙川駅にて

三、新宿末広亭 「寄席鑑賞」の会

・ 日時：8月8日(土) 昼の部 12時

四、青梅観光・小澤酒造見学会

・ 日時：9月21日(月・祝)

・ 集合：9:00 永山駅にて

五、江戸アートミュージアム 見学と江戸川競艇観戦

見学と江戸川競艇観戦

・ 日時：10月16日(金)
・ 集合：10:00 現地にて
・ 特製ランチ付き

六、明大黒川農場見学(収穫祭)

・ 日時：11月7日(土)

七、マンドリンクラブ演奏会

(府中地域支部との共催)

・ 日時：11月29日(日)

八、ラグビー明早戦応援

・ 日時：12月6日(日)

・ 場所：秩父宮ラグビー場

平成26年度 下期活動報告

一、明治大学平和教育 研究所を見学して

中山 雅雄(S 37 法)

今年2月20日に校友14名で、明治大学平和教育研究所資料館を見学しました。

小田急線の生田駅で待ち合わせ、懐かしい生田キャンパスへの道を昔の思い出を語りながら徒歩15分、目指す資料館に到着。かねてから見



学予約を取っていたため、案内役の椎名さんの出迎えを受け、早速資料館内の見学となりました。

この資料館のある生田キャンパスはかつての登戸研究所の敷地内であり、登戸研究所とは旧日本陸軍が秘密戦のための兵器・資材を研究開発するために設置した研究所で、一般にはその存在は秘密にされていたものでした。

同研究所は昭和12年に開設され、最盛期の19年には敷地11万坪、建物100棟余、技術将校等幹部要員250名、一般の雇人・工員等1000名

に達する大規模な研究所になったそうです。しかし20年には戦局悪化により、その機能は長野県伊那地方に分散・疎開し、そこで終戦を迎えました。明治大学は25年に生田の地にあった登戸研究所の敷地の半分を建物ごと取得し、生田キャンパスが開設されたわけです。

この資料館の特徴は、旧陸軍の研究施設がそのまま保存・活用されており、全国でも唯一の事例であるということです。第2に歴史にはほとんど記録されていない秘密戦に焦点を当てたものであること、第3に登戸研究所の全貌、各研究の活動概要（電波兵器、毒物・薬物・生物兵器・スパイ用品、偽札・偽造、ハスポーツ製造、風船爆弾など兵器の量産部門など）を、実証的かつ視覚的に展示した常設館であることが詳しく説明されています。

資料館の他実験動物の慰霊碑、研究の神である弥心神社、陸軍のマーチの入った消火栓、弾薬庫跡などを、現物を見ながら説明を受け案内していただきました。

表舞台には表れない戦争の裏側を見聞し、その怖さを実感しました。また千数百名に及ぶ関係者の方々

が、その存在すら一切の開陳が出来ず、その職責を全うさせられた悲劇を思うと戦争の悲惨さを思い知らされた貴重な見学会でした。

二、第三回観桜会に参加して

峯岸 正巳(S 63工)

4月4日に桜ヶ丘公園(お花見坂)に於きまして観桜会を開催しました。直前に小雨が降り出し開催が危ぶまれましたが、集合時間になると雨は止みました。連日の気温低下



で早咲きの桜は散らず丁度見頃でした。当日は風が強く気温は低めでしたが、沢山の方々が見をされて

いました。

当会から16名の参加で楽しいひと時を過ごせました。最後に校歌を斉唱し、観桜会の閉会となりました。観桜会後、場所をひじり館に移してカラオケ会を開催。楽しい一日を過ごすことが出来ました。

三、ディスクゴルフ

大会に参加して

榎田 成美(S 41法)

3月28日、立川昭和記念公園で、明大校友会の第6回地域支部対抗のディスクゴルフ大会が行われ、総勢75名が参加。うち女性は4名でした。



内容は、多摩市地域支部は皆苦戦

やったこととがない私は、みんなの足をひっぱり申し訳なかったです。女性はたった4名なので、顔や名前

我が支部代表6人衆

を覚えることができ良かったです。これからもっと女性が参加すると良いのと思いました。

昭和記念公園は美しいところでした。帰り道を歩きながら、青空の下、一日良い汗を流したなと思えました。

会員活動便り

一、山開きで祝詞奏上

菊池 武信(S 42経営)

私の家は都立桜ヶ丘公園のすぐ近くにありますが、同公園の雑木林ボランティアに入会し活動に参加してから10年たちます。

最初の3年余りは雑木林保全の作業に従事しましたが、その後田んぼで米作りに従事し現在にいたっています。同公園の現在の面積は約10万坪、田んぼは公園と離れた連光寺小の近くにあり面積は3千坪、田んぼは37面です。同ボランティアの創設は平成3年、現在メンバーは60数名で、活動日は毎週土日全日です。雑木林の保全とは、山を炭山の状態(薪炭林)に保全することです。田んぼは湧水と雨水にたよる谷戸田で、谷戸田を保全することが目的です。

谷戸田ですから水を切れません。一年中水が入った状態にあります。そこで、田んぼの底はヌルヌル、ドロドロで場所によっては沼みたいで深く足を取られます。だから、耕運機は使用不可能です。

田んぼですから休める屋根のある建物はありません。椅子とテーブルはありますが。冬も炎天下の夏もお天道様の下で休息したり昼食をとったりします。田んぼに入れば一年中泥だらけ、冬は寒風にさらされ、夏は汗まみれになります。 ささやかな自然界のプレゼントは、暑いさなか吹き抜ける風。一年を通して、代掻き(*1)、天地返し(*2)、畔の補修、草取り、苗づくり、田植え、稲刈り、乾燥、脱穀、唐箕(*3)、モミとり、精米等々あり、作業が絶えることはありません。

ところで、当ボランテアの新年早々の山開きで、7〜8年前から私が祝詞を奏上し怪我がないよう祈願するのが恒例になっています。

一年に一回のにわか神主です。実は、私の実家は安土桃山時代神主になった家系です。

*1 代掻き「しろかき」

田植えのために、田に水を入れて土を砕いてかきならす作業

*2 天地返し

土の表層と深層を入れ替えること

*3 唐箕「とうみ」

穀粒を選別する装置



二、紀行

〜タリン、リガ、ヘルシンキの旅〜

伊東 勝義(S 35 商)

平成26年5月22日〜26日タリン、リガ、ヘルシンキへ年寄り5名で観光小旅行に行ってきました。22日昼(時差あり)、フィンランドのヘルシンキ空港から港へ直行。途中驚いたことに5月なのに海水浴場では海水浴客が泳いでおり、道路では上半身裸の人々が闊歩。太陽光を必死で求める北欧の人達の心意気、恐れ入りました。港から大型客船(9階建て)でバルト海を渡ってエストニアの首都タリンへ。船は平日にもかかわらず満員、買い物客も多く、7階の1フロアを占める大手スーパーで、山のような買い物をして行くようです。バルト諸国と北欧諸国では、30〜50%位物価差があると聞き納得。

タリンは人口40万。新市街地と厚い外壁に取り囲まれた旧市街地



リガ (アールヌボール建築)

(世界遺産登録)からなり、中世の雰囲気息づく都市。北ヨーロッパ唯一のゴシック様式の市庁舎、ラエコヤ広場、代々の支配者の住まいとなつたトームペア城等が素敵でした。落ち着いた町ですが、やはり若者は元氣、朝の6時頃までクラブでガング踊っていました。

翌23日はバスでラトビアの首都リガへ。途中すれ違ふ車は昼間でもライトを点灯、冬の長い北国の安全対策の一環とのこと。リガは13世紀からハンザ同盟の港町として繁栄。旧市街(歴史地区)は世界遺産に登録されている。リガで一番感銘を受けたのはアルベルタ通りに建ち並ぶ奇抜な建築群でした。19世紀後半ヨーロッパで流行したアールヌボール様式を取り入れ、有名な建築家ミハイル・エイゼンシュタインの設計によるもの。曲線や植物文様、人体

像を用いた過度な装飾的デザインは芸術に無理解な私でも圧倒されました。しかしここに住むには日本円で1〜3億円が必要とのこと。普通の人は住めないのです。現在は各国大使館、大学、国、大金持ちが利用しているようです。一般の物価は安く、現地ガイドに紹介されたチョコレート屋では美味しいチョコ20個入り約400円。思わずお土産として6箱買ってしまいました。

24日は往路のルートを逆行してフィンランドの首都ヘルシンキへ。ここはバルト海に面する港湾都市。様々な街の歴史に触れる一方、モダンな建築と最先端のデザインが都会への成長の一面を見せており、町中を走るトラムには哀愁を感じました。また元老広場に立つ白亜の教会ヘルシンキ大聖堂は荘厳で厳粛。だが、広場の中央に立つ独立前まで支配されていた、ロシア皇帝アレキサンダー2世の銅像に対して、市民はどう思っているのでしょうか？

さて、夜はホテルフロントのお嬢様の紹介により、タクシーでポールダンスをやっているナイトクラブへ。(タクシーは基本料金980円位で、乗車人員によって異なる)そしてダン



ヘルシンキ (トラム)

スの鑑賞、北欧美人との片言英語による頓珍漢会話で、そこそこ楽しいひと時を過ごしました。

24日、旅行会社が手配したヘルシンキのホテルへ。ところが驚いたことに予約がされていませんでした。時差の関係で日本の旅行会社はまだ始まっておらず、仕方がないのでこのホテルに宿泊することに決め、その旨伝えました。すると、フロントの女性が「チョット待ってください。もしかすると旅行会社の手配漏れでなく、パウチャーにホテル名を間違って記入したのかも知れません。心当たりを2、3当たってみます。」と言って待つこと10分。予約がされたホテルを見事探し当ててくれま

した。その上そのホテルの車で送ってくれると言われ、今度来る時には必ずこのホテルに泊まることを確約し、笑顔に見送られながらこのホテルを後にしました。今まで海外でこんなに親切な扱いを受けたことはいくら大感激、心温まる思い出となりました。サービスを誇る日本のホテルもウカウカしておれませんね。

三、校友会に参加して

上春 貴(S 57政経研究科)

私が校友会に参加したのは、昨年の新年会からでした。人一倍愛校心が強いと自負している私ですが、現役時代の忙しさにかまけて校友会本部からのお知らせ・お誘いは事実上、無視し続けてきました。

新年会のお知らせを頂き、多摩市在住の先輩方にはどんな人がいるのだろう、との単純な関心から興味を引かれ、一度試しに参加しようと思いきりました。

新年会で初めて接した諸先輩は、実に多士済済。学部・大学院の足掛け十年近く所属した私自身が感じてきた明治大学のスクールカラーを、各人各様の個性の中で体現された方ばかりで、魅力的な人間性・人格

との出会いの連続でした。

男性諸氏はバンカラ明治を彷彿させる風格の方が多く、現役時代に懸命に働き、自分なりにひとかどの業績を成し遂げたとの自負を胸に秘めた方々とお見受けしました。

女性の先輩方は、一言でいえば

「ハンサム・ウーマン」。背筋がしやんと伸び、颯爽とした立ち居振る舞い、凛とした気高い精神性が感じられます。男女平等の戦後社会とはいえ、現実にはまだまだ圧倒的に男性上位であった1960年代に、とりわけ男の大学のイメージが強いバンカラ明治で男子に伍して学生時代を過ごし、旧態依然たる女性差別の嵐が吹きすさぶ日本社会の荒波を果敢に乗り越えてきたからこそその気高さを兼ね備えた先輩女性たちに、私は尊崇の念さえ抱きました。

私がそのように想像を逞ましくした理由は、女性社員未権利状態の富士通で働き、個人的に闘って自ら産休を勝ち取り、同社の人権水準を一歩前に進めた亡き妻(明大文卒)の思い出があるからです。

初めての校友会参加で男女先輩諸氏の人的・人格的魅力に引き付けられた私は、その後の一年余、仕

事の合間を縫って支部の諸行事に参加しました。毎月末の月例カラオケと、サントリービール工場・ジューキーシン・明大生田の平和教育研究所資料館などの見学です。

娯楽あり、学びと発見あり。

敬愛する諸先輩との楽しい交流の中で文化的・知的欲求を追求できる素晴らしい機会が、自分の後半生に加えられ、感謝しています。

♪付記 ひじり館 楽唱祭らくしょう

5月30日(土)、ひじり館を利用する諸団体によるカラオケ大会の「楽唱祭」に支部として参加。朝9時半から昼休みを挟んで夕方4時頃まで、各団体の計75人が順に歌いました。



熱唱の岩永さん

我が「紫紺の会」からは6人が参加。藤川さんは司会の大役もこなされました。以下、出演順に曲目と私

の寸評です。

岩永さん「ハナミズキ」 身振り手振りも入り、表現豊かに愛らしく。

上春「兄弟船」 歌謡ショー風の口上をセルフで入れ、ド演歌でド迫力勝負に打って出ました(笑)。

安波さん「おまえに」 酒が入らないから調子が出ない、などと言いつつも低音の魅力でカッコ良く決めました。

伊東さん「憧れのハワイ航路」 お昼に飲んだ梅チューハイの効果できめん、朗々と歌い上げました。

藤川さん「たそがれの夢」 第一声が流れるや否や、満場の聴衆の心を魅了したいつもながらの美声は、明治大学混声合唱団以来の鍛錬の賜物でしょう。

榎田さん「J(ジェイ)」 良く歌い込んでご自分の歌にしていらっしやるからこそ、しつとりとした情感、落ち着いた説得力に、うっとりしてしまいました。

総じて、「紫紺の会」 6人衆の気迫ある歌声は会場の雰囲気席卷した、と言っても過言ではありません。



四、趣味

水彩画を描く(シリーズ②)

中山雅雄(S37法)
趣味でNHK文化センター八王子教室「楽しく描く水彩画」教室に入り8年続いております。



<春の雨>
散り行く桜の花弁が美しかった

会員の動静

(順不同・敬称略)

鈴木脩二(S29短社)氏がご逝去されました。衷心よりお悔やみ申し上げます。

なお、残念ながら次の4氏が一身上の都合により退会されました。
伊藤頼男(S35法) 門間礼司(S54工)
山内真理(S43政経) 佐藤悦朗(H2工)
会員数88名(平成27年5月現在)
会員相互の動静もお知らせください。

多摩市地域支部のホームページが出来上がりました!

<http://meijikoyu-tamashi.jimdo.com/>

明治大学校友会多摩市地域支部

検索

行事への参加申し込みは、HPからできます。



会費納入のお願い

未納の方は同封の振込用紙にてお支払をお願い致します。

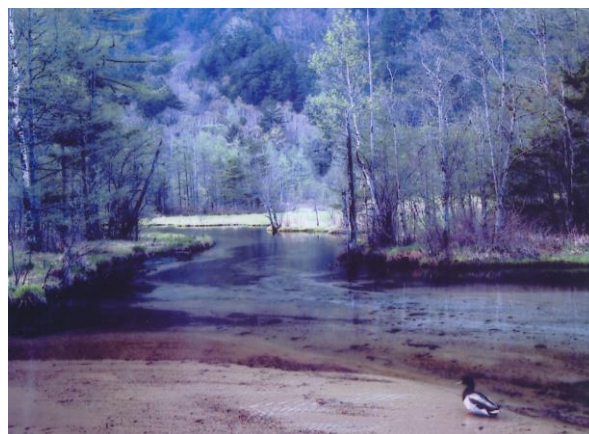
編集後記

・紫紺への投稿をお願いします。
・梅雨入りし、蒸し暑い日々が続きます。お互い体調管理をしっかりと! 飲み過ぎにも「用心」...
・今期の活動企画を満載!
多数のご参加を待っています。(や)

会員ギャラリー 自慢の一葉⑤



②ミソサザイ (求愛ポーズ)
撮影者 矢場岩男(S43 商)



①田代池 (上高地)
撮影者 鶴田勇雄(S37法)